

テクノロジーを活用した介護現場の生産性向上の実践

高品質サービスの追求 企業と連携した I C T ・ I o T システムの実践、活用事例の報告

【Chatwork・ライブリズムナビ+Dr.・FirstCare・Rehab Cloud・ライブリズムナビ+HOME】

2024. 1. 26

株式会社来夢
管理者統括 矢代 虎太郎

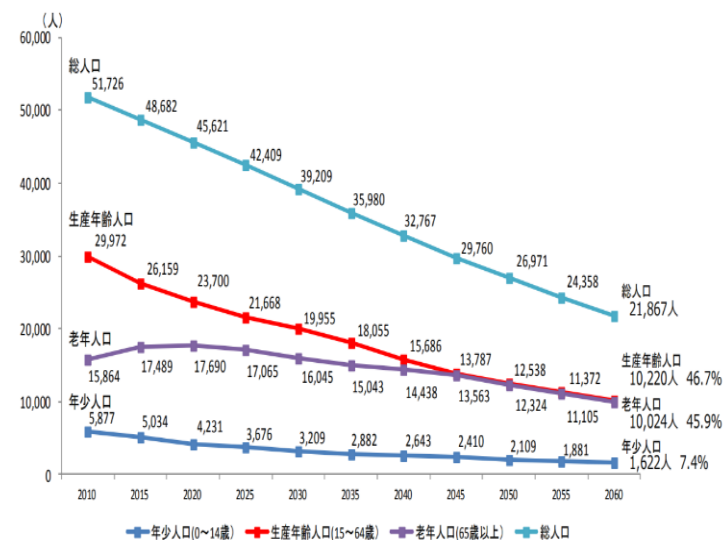
会社概要

法人名 株式会社来夢
事業所名 リハ・ハウス来夢
代表者 代表取締役 岩倉 香織
設立 平成26年4月2日
住所 氷見市伊勢大町二丁目14番20号
事業内容 通所介護(定員30名)、訪問介護事業
サービス付き高齢者向け住宅事業(40室)
居宅介護支援事業
関連会社 株式会社力オリ、有限会社サラン商会、
岩倉米穀店、岩倉不動産



地域統計

人口 42,922人 人口密度 190.6人/km²
世帯数 16,972世帯 高齢化率 39.08%
昼夜間人口比率 85.3% 地域経済循環率 63.9%
第3次産業所得 582万円



出典: 国立社会保障・人口問題研究所推計

氷見市の総人口は年々減少していて、高齢化率の伸びが他市と比較しても著しい
年少人口と生産年齢人口の減少が目立っており、特に男性の生産年齢人口の半数が
他市へ通勤しており、年々他市へ人口が流出している

導入前の主な課題

全社

- ・ 職員の個々のレベルにバラツキがあり、統一したサービス提供が実施できていない
- ・ 利用者様本位でのサービス提供が出来ていない
- ・ 自立支援、認知症対応、中重度対応に弱い
- ・ 間接業務の効率が悪い、残業時間が多い
- ・ 事務作業に追われていて、直接業務が疎かになっている

サ高住

- ・ 認知症状の重い入居者への対応が弱い
- ・ 介護依存度や医療依存度が高くなってしまうと特別養護老人ホームなどへ移動

将来への予測と展望

- ・ 生産性が向上することで、利用者様や職員の満足度につながるのではないか？
- ・ 業務改善を行うことで、高品質のサービスを提供することにつながるのではないか？

➡ 生産性の向上、業務改善、高品質のサービスを行うためにはどうすればよいのか？

➡ 当社でもICT、IoTシステムを導入すべき？？

全事業所共通

- ・ 約300事業所のベンチマークや各種展示会、講習会の視察【平成29年～令和1年】
- ・ ベテラン職員を中心にICT化している事業所を視察【平成30年9月18日】
- ・ 申し送り業務をビジネスチャット化へ変更(Chatworkの導入)【平成30年9月から】
- ・ 高齢者住まい看取り推進研修事業所の採択を受け、研修実施【平成30年12月19日】
- ・ 食事提供業者の変更(療養食対応、クックチル対応へ切替)【平成31年4月1日から】
- ・ 介護記録ソフトをICT対応に変更(FirstCareの導入)【令和元年11月から】
- ・ インカムの導入【令和3年9月から】

サービス付き高齢者向け住宅

- ・ 経営革新法採択【平成31年4月18日】
- ・ 平成30年度補正「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」採択【令和元年6月】
- ・ 見守り機器を全居室へ設置(ライフリズムナビ+Dr.の導入)【令和元年9月から】

通所介護

- ・ リハビリ職員を確保(看護職からリハ専門職へ)【平成30年4月：PT、平成31年1月：OT】
- ・ リハプラン(現Rehab Cloud) の導入【令和4年3月から】



Rehab Cloud



職員間や他事業所、利用者家族とのコミュニケーションツール

Chatwork × 社用携帯 × インカム = ペーパーレス対応

- ・社内申し送りはノートから電子化へ切り替え（社内）
- ・画像や動画、添付書類をリアルタイムで共有可能（社内外）
- ・必要な情報を全体や事業所、必要な階層に分けて共有（社内外）

多職種・関係者への連携ツール

当社のChatwork運用画面



インカムの使用風景

ライフリズムナビ+Dr. × FirstCare × Rehab Cloud × ライフリズムナビ+HOME × Chatwork

- ・詳細データを必要に応じて多職種で共有することにより統一した介護サービスを実施

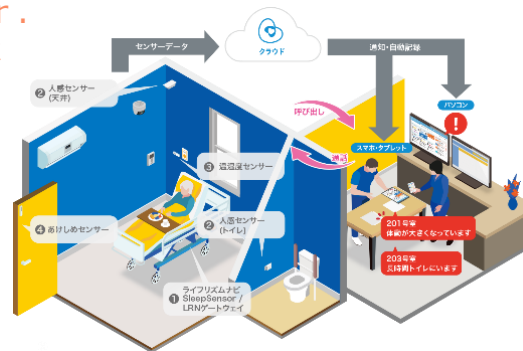
見守り機能としてのツール

ライフリズムナビ+Dr.

※画像・イラストは
メーカーの提供

ライフリズムナビ+Dr. × HOME

- ・サービスのすき間を見守りツールを用いて活用
- ・見守り情報をもとにサービス調整を行う
- ・従来の施設だけでなく、在宅でも見守りが可能

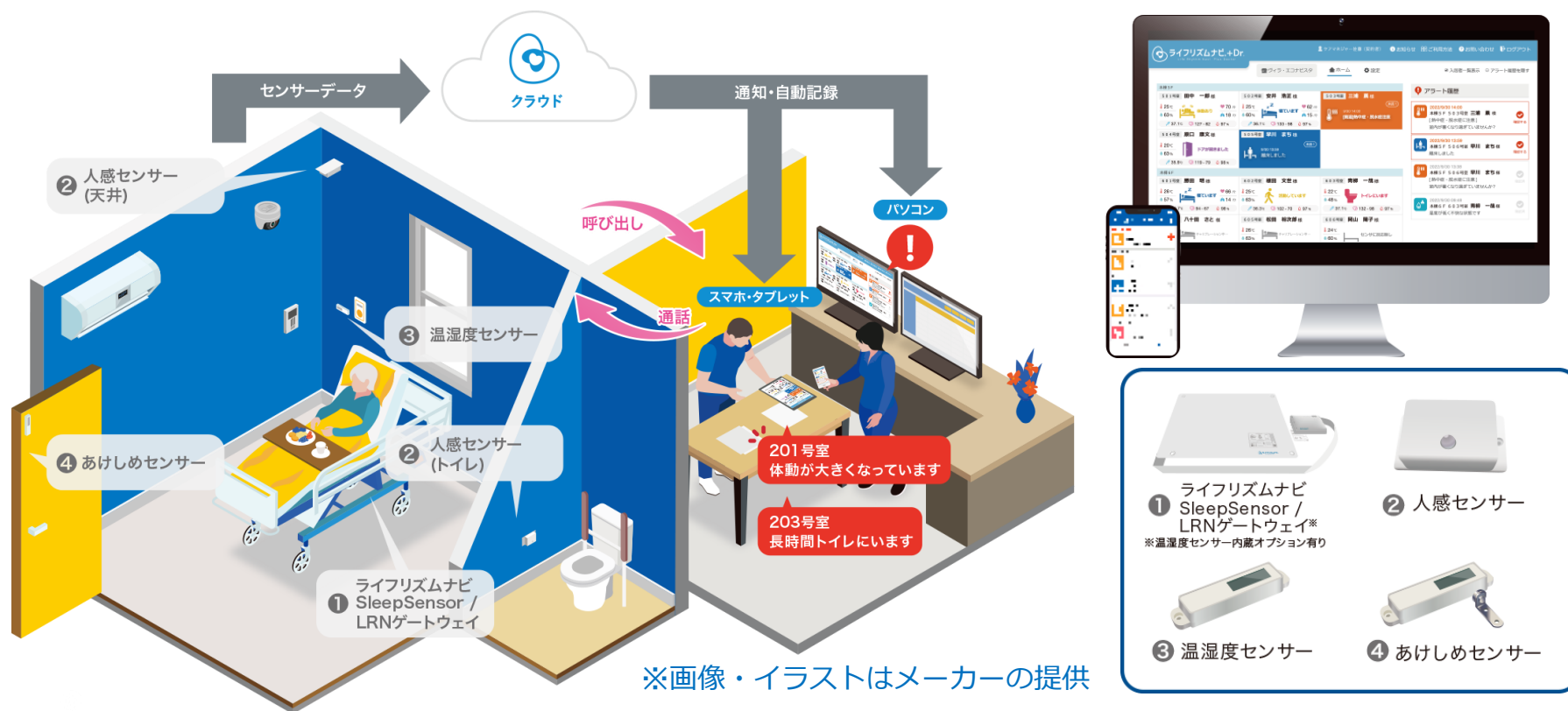


➡ 当社では必要に応じて複数のシステムをミックスして活用している

Bluetooth通信対応の
バイタル機器と記録を連動

ライフリズムナビ+Dr.とは【参考資料】

入居者の暮らしを妨げないで、必要に応じて介助を行う「先回りの介護」を実現が可能
現場の業務効率化と生産性向上を同時に実現し、質の高い介護を可能にする見守りシステム



PCモニターやタブレットにてリアルタイムの生活状態が表示されている
必要なアラート設定と職員の気づきで先回りの介護を実現している

ライフリズムナビ + Dr. 詳細画面 【参考資料】

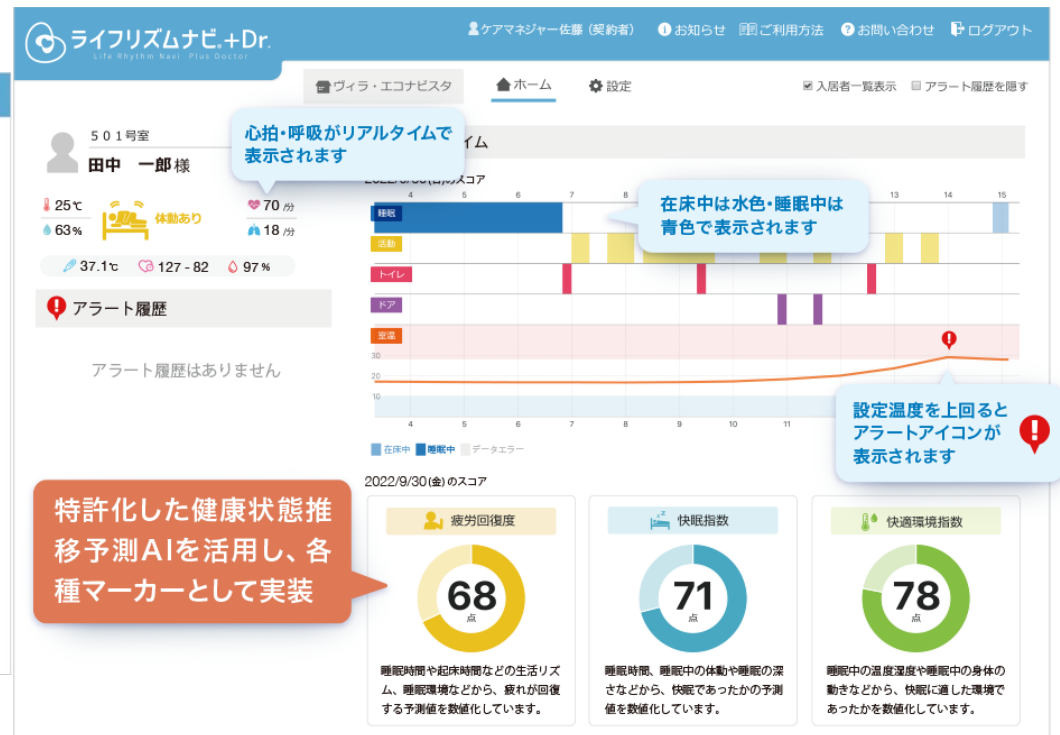
入居者の暮らしを妨げないで、必要に応じて介助を行う「先回りの介護」を実現が可能
現場の業務効率化と生産性向上を同時に実現し、質の高い介護を可能にする見守りシステム

一覧画面 ※ダミー画像



※画像・イラストはメーカーの提供

個別画面 ※ダミー画像



PCモニターやタブレットにてリアルタイムの生活状態が表示されている
必要なアラート設定と職員の気づきで先回りの介護を実現している

全事業所共通

- ・ 日常業務を見直し、3M「ムリ・ムダ・ムラ」を抽出
- ・ アナログで改善できるところはアナログで改善を行い、ICT、IoTシステムを導入し、各事業所の情報を一元管理
- ・ 間接業務の削減により、残業時間月平均約230時間削減
- ・ 事務効率が約60%上昇し、記録や請求業務が簡素化
- ➡ ケア記録を手書きからその場で速やかにタブレット入力へ
- ➡ 必要に応じてマイク音声入力も実施
- ・ インカムの導入でスピーディーな連携対応を実現（無駄な動きの削減）
- ・ Chatworkの導入にて必要な情報を必要な階層へリアルタイムに伝達
- ➡ 文字以外に画像や動画、書類添付が情報共有に役立った
- ➡ 新型コロナウイルス感染発生時に有効活用
- ・ 介護職員を各種研修へ派遣する時間の確保



タブレット操作風景



シルバー産業新聞
令和4年2月20日号掲載記事

当社の生産性向上について②

index1

Index2

改善

Index4

サービス付き高齢者向け住宅

- 活動状態が見える化することで、必要に応じた対応を実現
➡ モーニングケア、ナイトケアの集中時間を30%削減
夜間帯の巡視回数の削減
- 中重度入居希望者の受け入れ【平均介護度1.9上昇】
- 認知症入居希望者の受け入れ
- 看取り対応の実現【令和2年/3名、3年/3名、4年/5名、5年/4名】

通所介護

- 記録業務作成時間の削減(日平均：約10時間)
- 実績集計業務時間の削減(月平均：約32時間)
- 機能訓練計画書作成時間の削減(利用者一人あたり：約15分)
- モニタリングなど各種報告書作成時間の削減

訪問介護

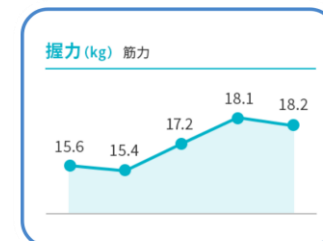
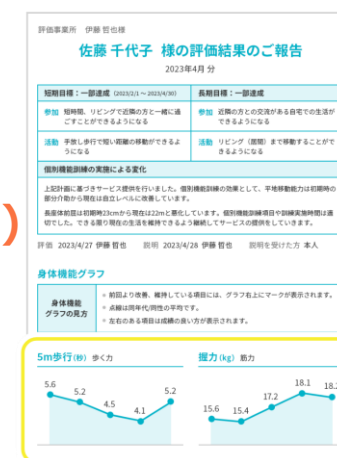
- 記録業務作成時間の削減(日平均：約10時間)
- 機能訓練計画書作成時間の削減(利用者一人あたり：約15分)
- 実績集計業務時間の削減(月平均：約32時間)



※一覧画面、個別画面はダミーを使用

※画像はメーカーの提供

※帳票はメーカーの提供
※データはダミーを使用



結果として…
大幅な業務改善を実現

全事業所共通

<<得られた情報を利活用することで、一人ひとりの生活スタイルに合わせたケアをサポート>>

- ・先回り介護の実現
- ・必要に応じたサービス内容をケアプランに反映
- ・デジタルケアプランニングの実現
- ・排泄対応へのレベル強化（オムツからトイレへの移行）
- ・介護依存度、医療依存度中重度者の積極的な受け入れ
- ・嚥下機能に合わせた食事提供の実施
- ・在宅看取り対応の実現
- ・看取り対象者には対象者情報カードやACPを必ず作成
- ・かかりつけ医、かかりつけ薬局との連携強化
- ・介護福祉士の資格保持者の上昇
- ・新規加算の取得実現

※第2表はダミーを使用
※画像はメーカーの提供

利用者氏名	様	作成年月日	令和05年06月28日
生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	長期目標	短期目標	対応内容
アルツハイマー認知症、糖尿病、高血圧、アルコール依存症、認知症歩行不安定、付き添う	施設内での清潔が維持できる	R05.06.28~R05.07.11	①声掛けをして口腔ケアを行う。②コミュニケーションを図り、適切なケアを実施する。
認知症の進行が口腔ケア、嚥下の手入りが不十分、またはできない	口腔内の清潔が維持できる	R05.06.28~R05.07.11	①声掛けをして口腔ケアを行う。②嚥下の洗浄を行って頂いたのち、不十分な所を職員が洗浄します。職員により週に2回夜間に嚥下洗浄剤を使用します。
#4 口腔内の清潔を保つことができる			介護職員、歯科医師 毎日 R05.06.28~R05.07.11
<口腔衛生管理計画>			
パンツおむつ使用中であるが失禁はない、歩行は不安定、トイレまで付き添い排泄できている	排泄を受けて排泄できる	R05.06.28~R05.07.11	①声掛け、または歩行器の補助を要し、トイレでの排泄ができるよう支援します。
#5 トイレで排泄したい	付き添うことでトイレで排泄できる	R05.06.28~R05.07.11	②定期的、また随時のおむつ交換を行い、清潔を維持します。③排便コントロールを行い定期的に排便が出来るよう支援します。
<排泄支援計画>			
嚥下機能の低下があり、傷が治りにくい可能性があるため、嚥下発生リスクあり	嚥下が発生しない	R05.06.28~R05.07.11	①体位、姿勢、密着による皮膚の摩擦、嚥下による皮膚の刺激の軽減を適宜行います。
#6 傷いのは嫌なので褥瘡は作らない	皮膚のトラブルを起さない、皮膚のトラブルがあっても施設内の対応で治癒できる	R05.06.28~R05.07.11	②皮膚に異常がある時は医療職と連携し適切な処置を行います。③食事摂取量のチェックを行い、摂取量の減少があれば管理栄養士と連携し対応します。
<褥瘡マネジメント計画>			

ライフリズムナビで生活リズムを把握し、生活リズムに合わせた声掛けを実施する。

ライフリズムナビで夜間の排泄リズムを把握する。

排泄データを共有し服薬調整を検討する。

利用者氏名	様	作成年月日	令和05年04月14日
生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	長期目標	短期目標	対応内容
#1 施設での生活に慣れ、必要がある自立支援促進計画	自身のペースで施設での暮らしを楽しむ	R05.04.15~R05.08.31	①声掛けをしながら、本人のペースで車椅子を自乗して頂く。②食事、エプロンを使用する。③日中、出来る限り起き上がり、ホールで音読やお話をしながら、生活のリズムを整える。
#2 穏やかな環境に慣れ、安心して過ごす	新しい環境に慣れ、安心して過ごす	R05.04.15~R05.08.31	①お昼に休んで頂いた後は、ホールまで職員と一緒に歩行器で歩く。②夜間、夜間でも職員が対応できるように対応する。
#3 新しい環境に慣れ、安心して過ごす	新しい環境に慣れ、安心して過ごす	R05.04.15~R05.08.31	①声掛けをしながら、本人のペースで車椅子を自乗して頂く。②食事、エプロンを使用する。③日中、出来る限り起き上がり、ホールで音読やお話をしながら、生活のリズムを整える。
#4 高齢によるADL低下、機能低下、認知症に類した排泄介助が必要である。トイレ排泄を継続したい	トイレ排泄を継続する	R05.04.15~R05.08.31	①声掛けをしながら、本人のペースで車椅子を自乗して頂く。②食事、エプロンを使用する。③日中、出来る限り起き上がり、ホールで音読やお話をしながら、生活のリズムを整える。
<排泄支援計画>			
#5 高齢の皮膚の脆弱性、紙パンツ使用による皮膚トラブルから褥瘡へ移行する可能性がある	褥瘡がない	R05.04.15~R05.08.31	①体位、姿勢、密着による皮膚の摩擦、嚥下による皮膚の刺激の軽減を適宜行います。②皮膚に異常がある時は医療職と連携し適切な処置を行います。③食事摂取量のチェックを行い、摂取量の減少があれば管理栄養士と連携し対応します。
<褥瘡マネジメント計画>			

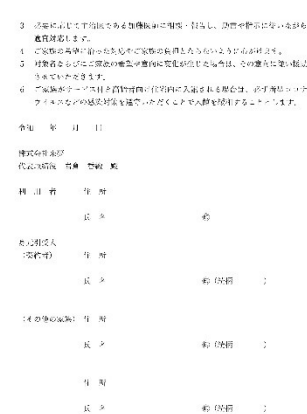
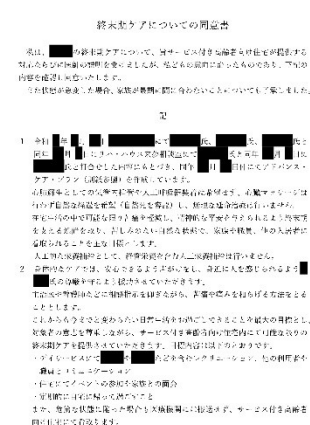
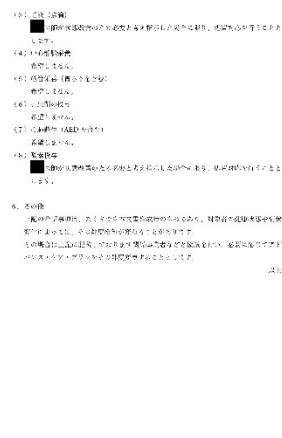
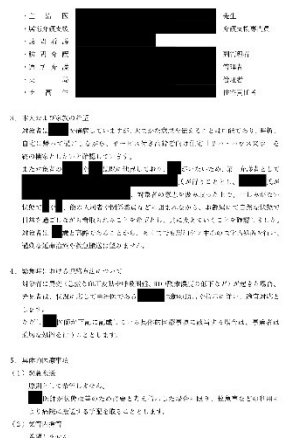
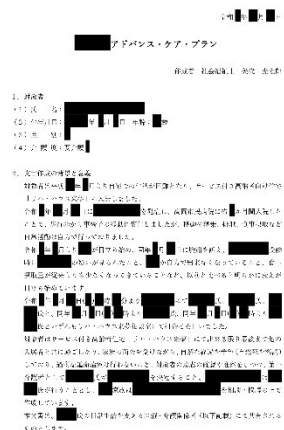
ライフリズムナビで生活リズムを把握する。

睡眠リズムに合わせて、就寝、起床助の時間を検討/実施する。

ライフリズムナビで排泄時間等のデータを収集し排泄リズムを把握する。

排泄介助の時間をリズムに合わせて検討/実施する。

意向確認後、アドバンス・ケア・プランを取りまとめ、多職種にて共有して対応している



アドバンス・ケア・プラン（当社作成）

終末期ケアについての同意書

意向確認は入居時や状態変化時など、生活の変わり目の際に入居者様や家族様などに対して、

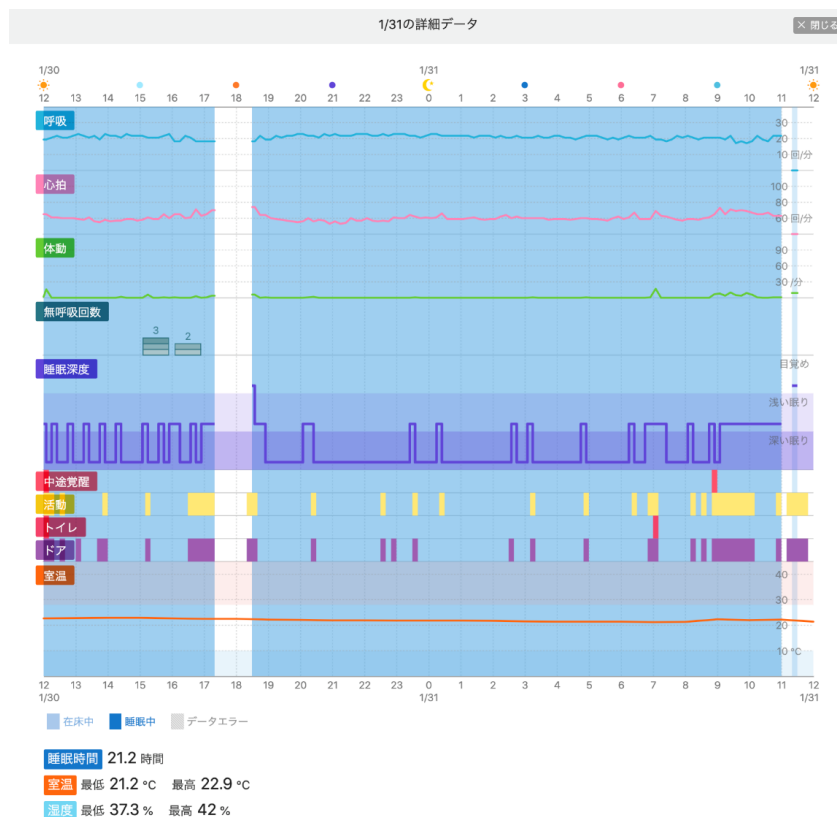
これからどのように過ごされたいのか、終末期を迎えたい場所や延命治療の有無、気になる

ことなど、雑談などから入って畏まらないように確認している

看取り対応 1

胸部食道癌、喉頭癌などの看取り事例【参考資料】

浅い睡眠がほぼなく、死亡 4 日前より無呼吸回数の増加が確認されている



【死亡 5 日前】

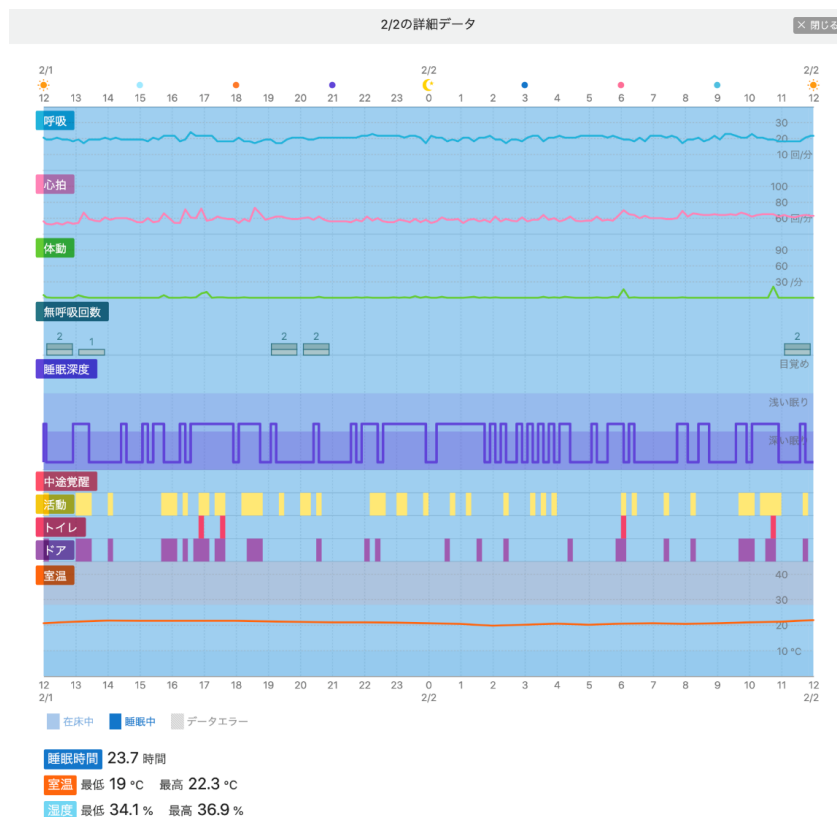


【死亡 4 日前】

看取り対応 1

胸部食道癌、喉頭癌などの看取り事例【参考資料】

体位交換やギャッチアップで状態を楽にさせ、死亡2日前より在宅酸素を使用開始している



【死亡3日前】

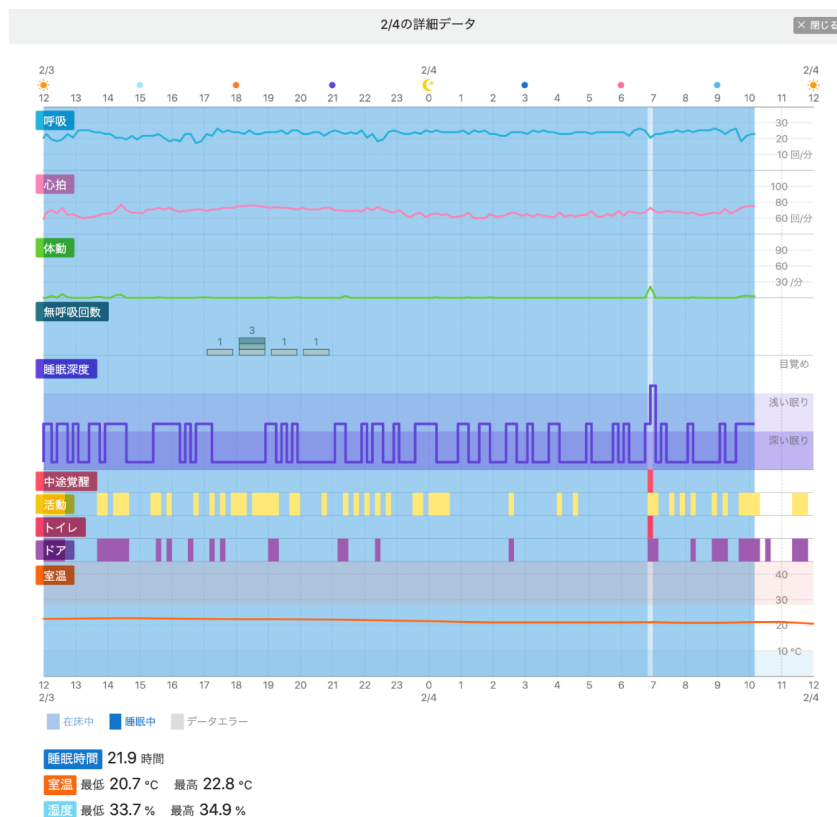


【死亡2日前】

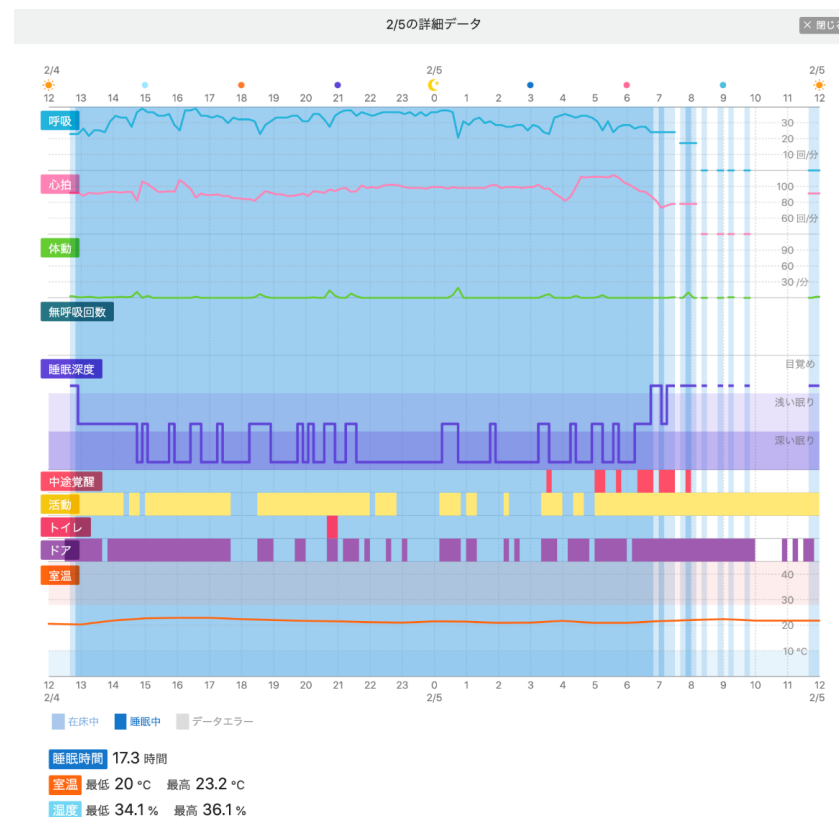
看取り対応 1

胸部食道癌、喉頭癌などの看取り事例【参考資料】

死亡日の正午以降より心拍や呼吸が乱れたので職員が家族様へ連絡し、家族様が最期を看取っている



【死亡 1 日前】



【死亡日】

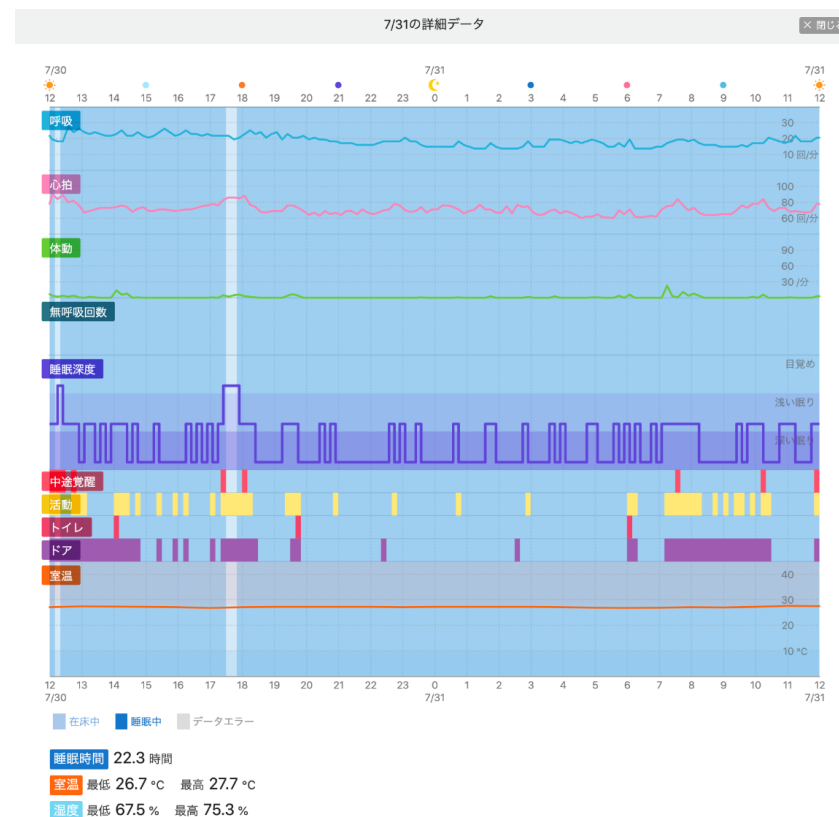
看取り対応 2

外傷性直腸裂傷、直腸癌、廃用症候群などの看取り事例【参考資料】

死亡 5 日前より呼吸が乱れ始めていることを職員が確認している



【死亡 5 日前】

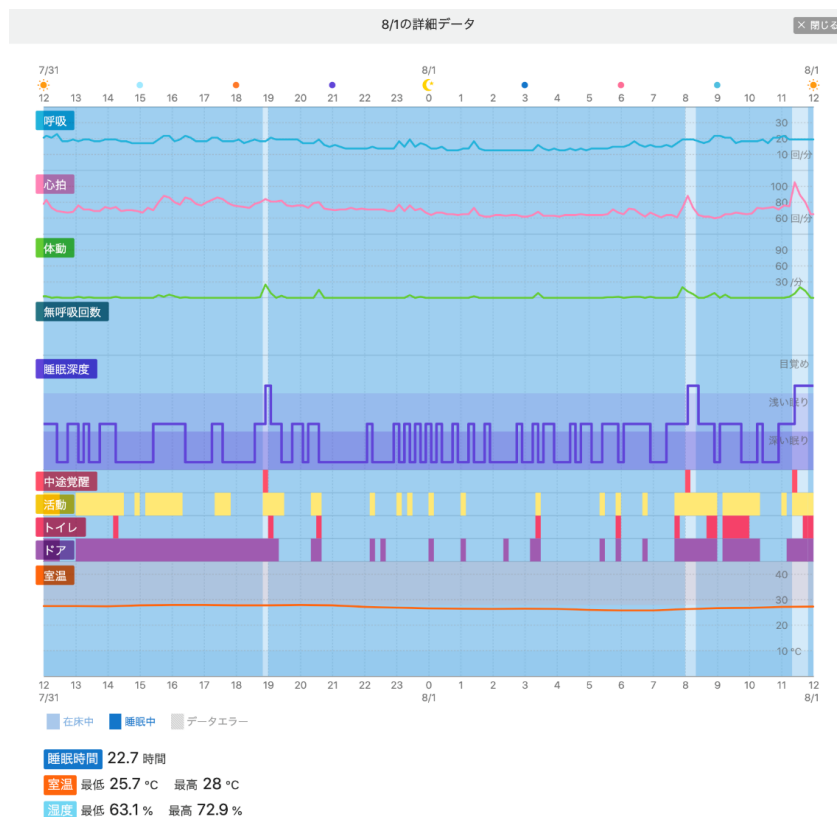


【死亡 4 日前】

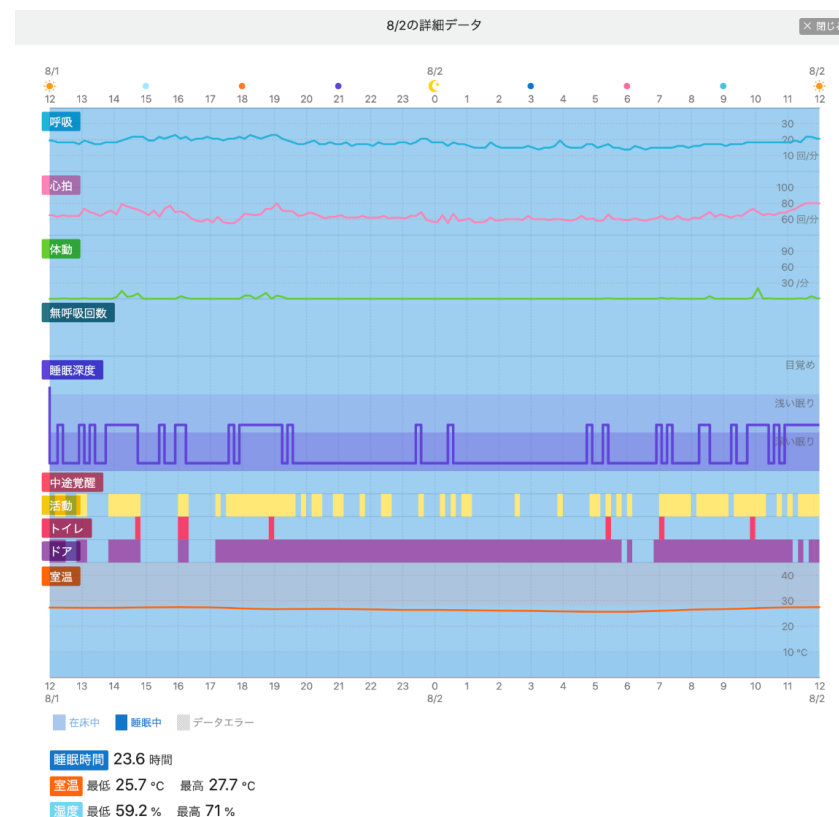
看取り対応 2

外傷性直腸裂傷、直腸癌、廃用症候群などの看取り事例【参考資料】

体動が少なくなり、睡眠深度が深くなってきている変化状況を家族様へ連絡した



【死亡 3 日前】

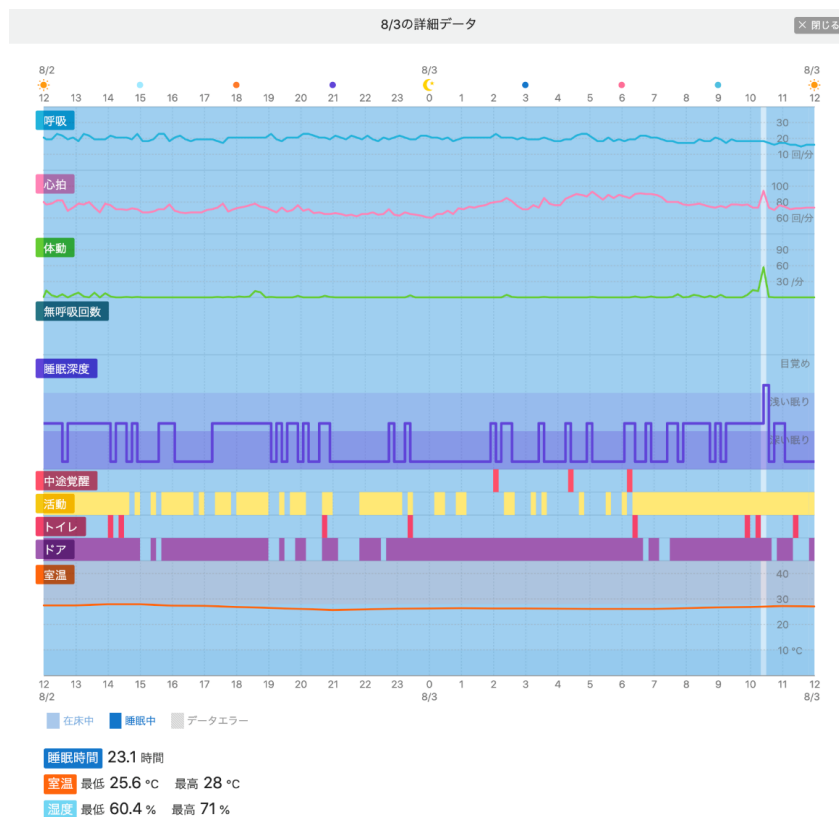


【死亡 2 日前】

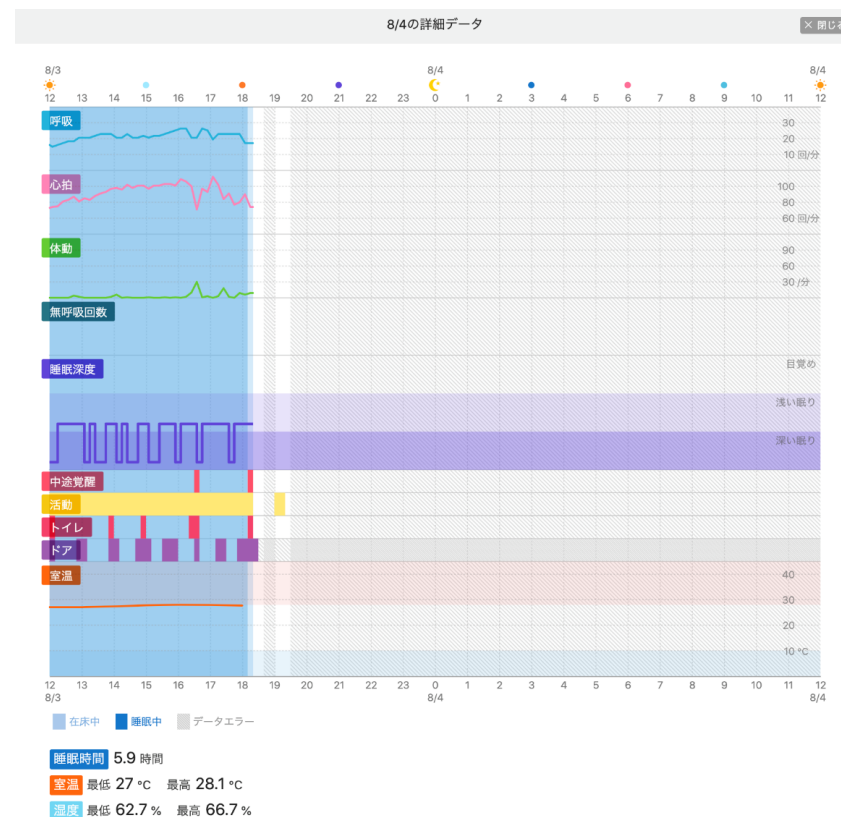
看取り対応 2

外傷性直腸裂傷、直腸癌、廃用症候群などの看取り事例【参考資料】

死亡日の16時以降より心拍や呼吸が乱れ始め、家族様や職員がまわりで付き添いながら看取っている



【死亡 1 日前】



【死亡日】

健康管理・睡眠改善

不眠かつトイレ内に終日滞在している変化を確認した事例【参考資料】

◎変化期間

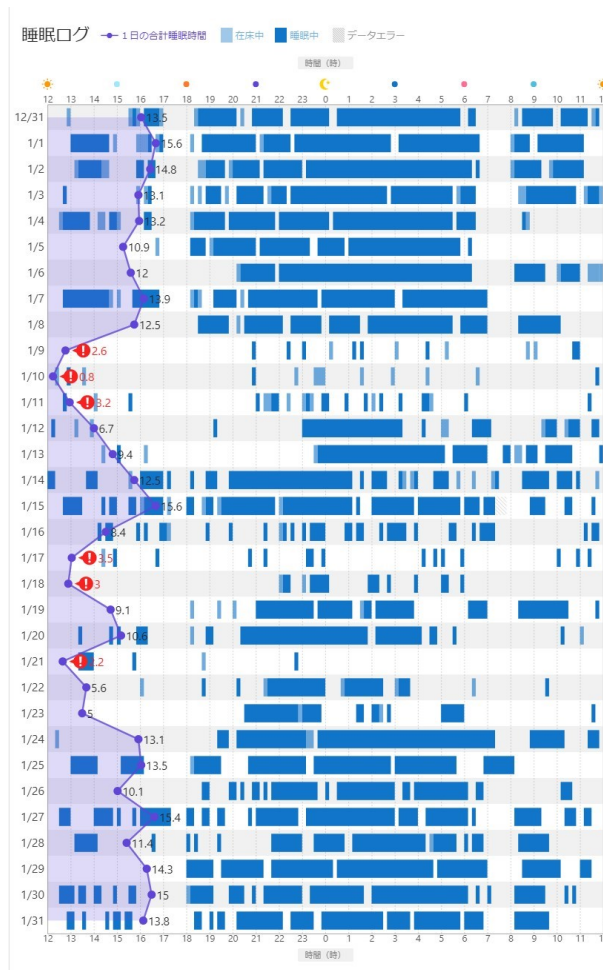
・ 1月9日～1月21日

◎日々の課題点

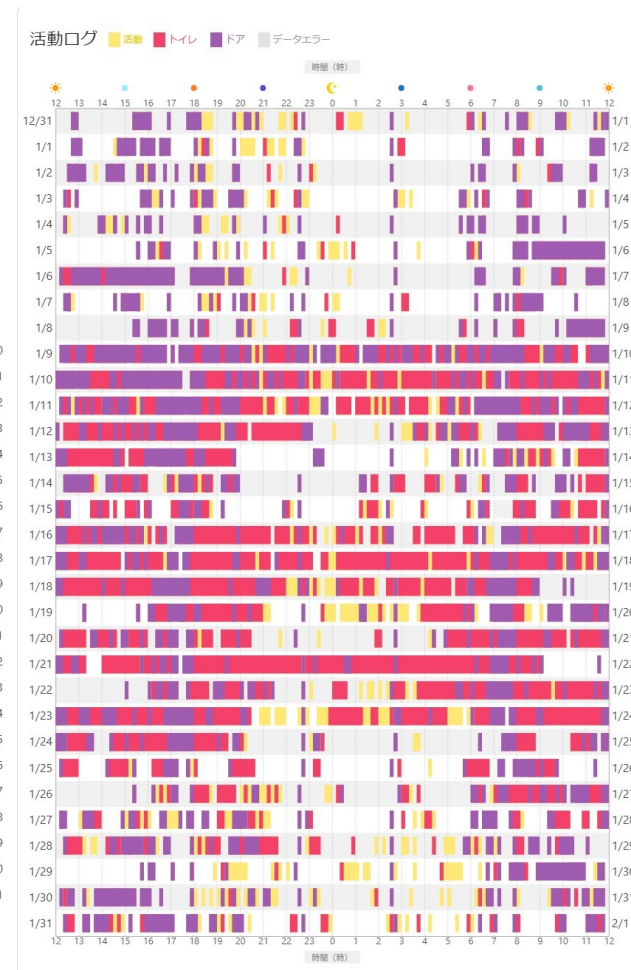
- ・ 認知症
- ・ 排便困難

◎主な変化

- ・ トイレをやたら気にしている
- ・ 排便が出ないと訴えている
- ・ そわそわしていて落ち着きがない
- ・ 睡眠時間が普段より極端に少ない
- ・ ふらつきが顕著で転倒リスクが高くなっていた



【睡眠ログ】

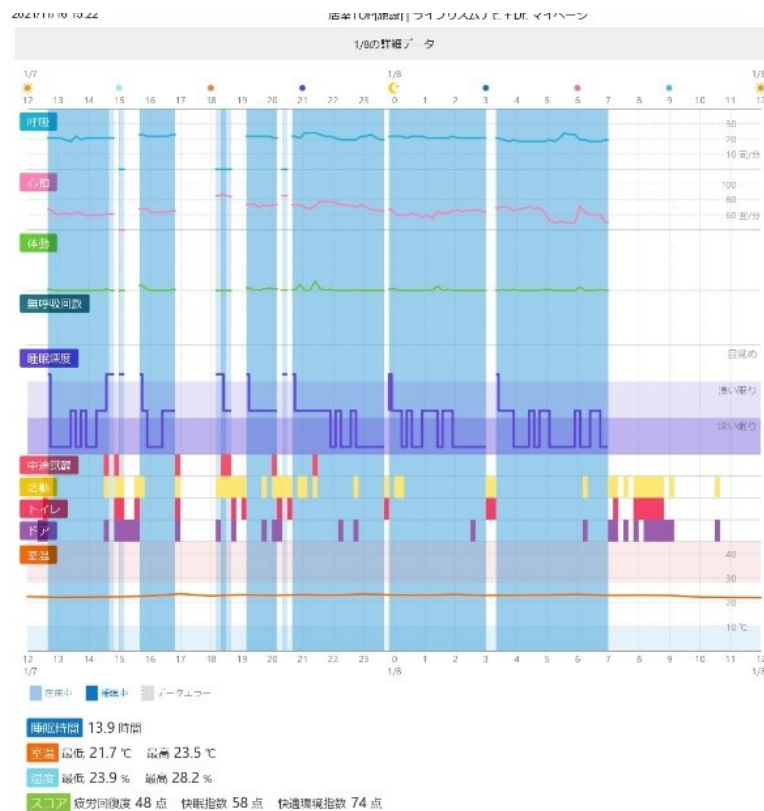


【活動ログ】

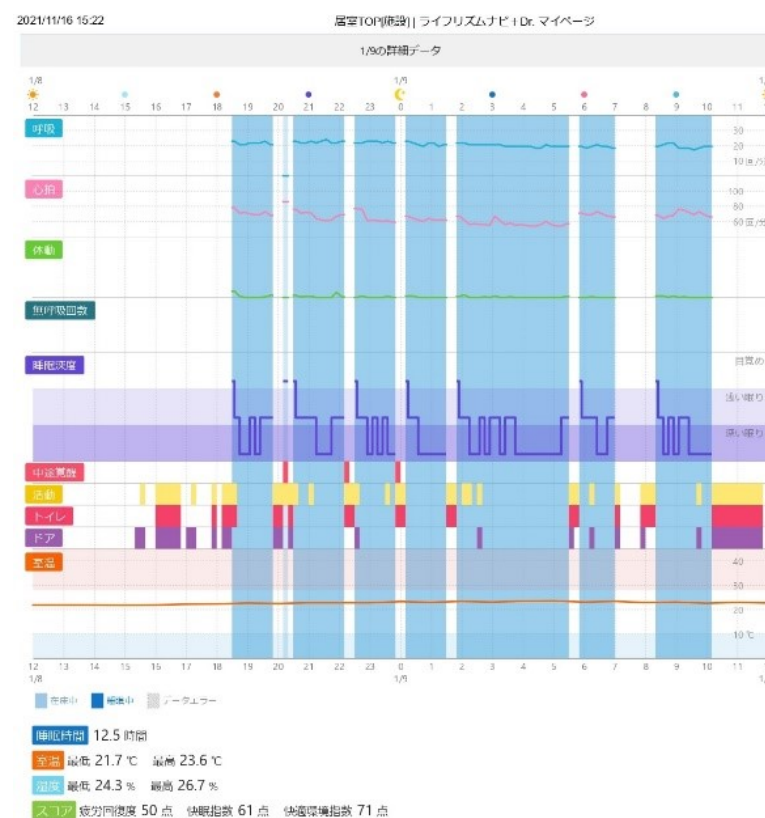
健康管理・睡眠改善

不眠かつトイレ内に終日滞在している変化を確認した事例【参考資料】

9日10時以降からトイレに居続けている状態が確認されている



【1月8日詳細データ】



【1月9日詳細データ】

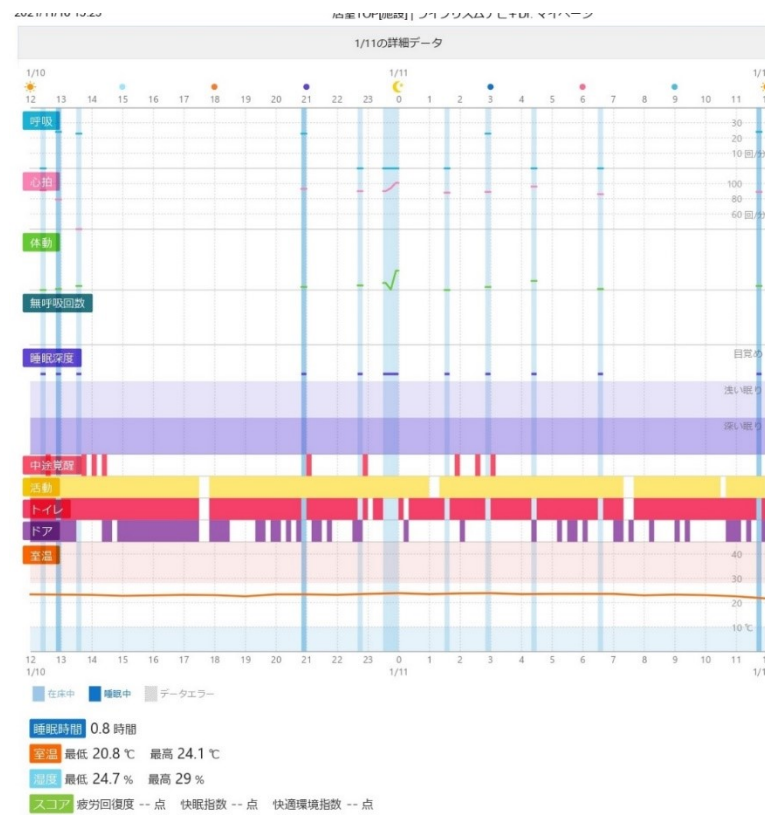
健康管理・睡眠改善

不眠かつトイレ内に終日滞在している変化を確認した事例【参考資料】

10日以降はほぼトイレ内で生活されていることが確認され、明らかに不眠状態である



【1月10日詳細データ】

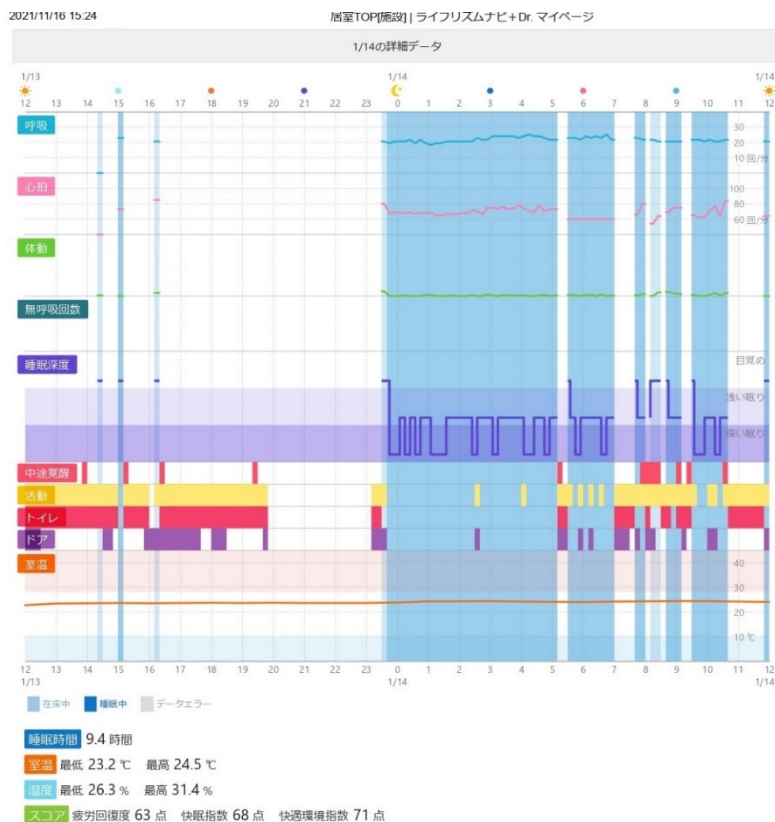


【1月11日詳細データ】

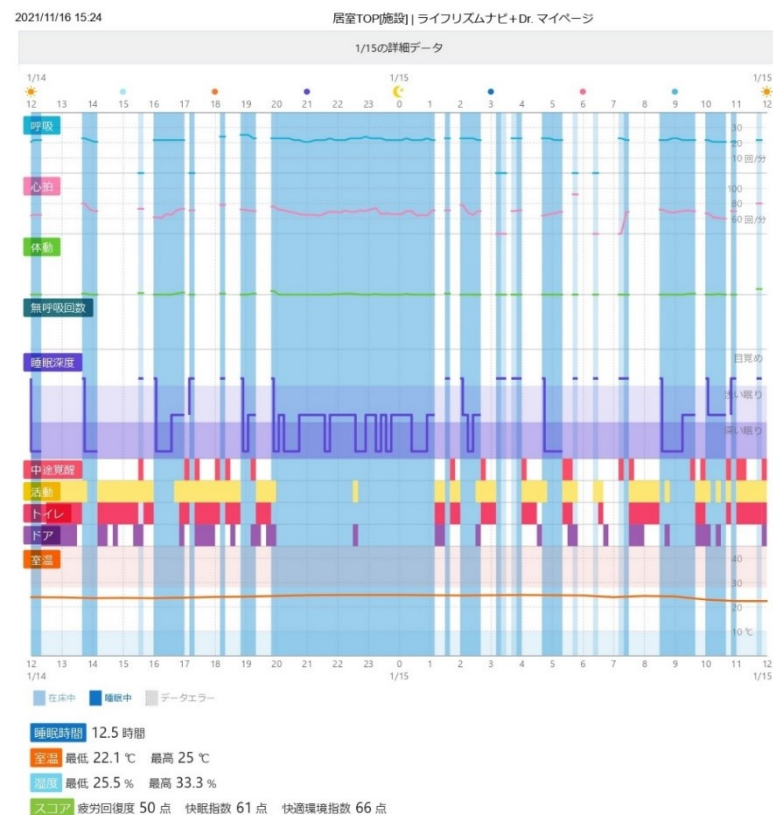
健康管理・睡眠改善

不眠かつトイレ内に終日滞在している変化を確認した事例【参考資料】

1 回あたりのトイレの時間は長いものの、眠剤を投与して睡眠時間がある程度確保している



【1月12日詳細データ】



【1月13日詳細データ】

1. 導入してから今までに感じたこと

- ・システムを導入する前に現実を振り返り、アナログで解決できることはアナログで解決すべき
- ・システムを入れたからと言って、すべてが完結する（片付く）わけではない
- ・システムを導入することでサービスの平準化や属人化の解消につながった
- ・感染症対応や震災対応に見守り機器の活用は有効であることが確認出来た
- ・震災対応にSNSの活用は有効であることが確認できた

2. 導入して出来ていること

- ・一定レベルで記録のICT化とペーパーレス化が達成出来た
- ・出来る限りの間接業務を削減し、直接業務に比重を変えることに成功した
- ・社内外にてタイムリーな情報共有を実現している（医療介護の連携強化につながった）
- ・科学的介護へ本格的に取り組むにあたり、ICT化やDXに職員の抵抗はなく、前向きに実施している

3. 今後の主な課題や将来への展望

- ・集合住宅以外の在宅でも見守りシステムを活用し、自宅で住み続けたい高齢者の生活を支援していく
- ・見守り機能を有効活用していくことで、通所系＋訪問系の複合サービスに一石を投じたい
- ・L I F Eの利活用が不十分なので、個別のフィードバックを活かして、更にケアの質を上げていく

h2> 震災対応のSNS活用について1【参考資料】



p>震災前



p>震災後

p>1月1日16時過ぎより、最大震度5を超える地震が複数回発生した

p>大津波警報が発令され、エレベーターは停止
自力で2F入居者様を3Fへ避難対応した

h2> 社内にて使用しているグループChatwork

p>来夢社内全体連絡用

p>新型コロナウイルス連絡用 ※震災後に変更

p>➡ 非常災害連絡用（臨時）

p>来夢社内全体（回覧）用 ※震災後に変更

p>➡ 職員安否確認用（臨時）

p>通所介護連絡用

p>訪問・住宅連絡用

p>居宅連絡用

p>看護連絡用

p>厨房部門連絡用

p>事務所連絡用

p>管理者会議連絡用

p>統括会議連絡用

p>訪問・住宅サービス提供責任者用

p>令和5年度事業計画・部門会議議事録用

震災対応のSNS活用について2【参考資料】

非常災害連絡用

<
非常災害用連絡チャット...



矢代 虎太郎
18:09

チャット名を「非常災害用連絡チャット（臨時）」に変更しました。

概要を「非常災害用の連絡チャットに変更します。」に変更しました。



矢代 虎太郎
18:12

TO ALL

午後5時現在、入居者は全員3Fへ移動しています。

夜勤者は無事到着していました。

日勤者も含めて、出勤している職員の家族の安否確認は来ています。



矢代 虎太郎
18:23

TO ALL

★非常災害用連絡チャットの開設★

非常災害情報を集約するために非常災害用連絡チャットを開設しました。

共有した方がよい情報を掲示出来るようにしますので、何かあればこちらに記載してください。

職員安否確認用

<
職員安否確認チャット (...



矢代 虎太郎
18:15

チャット名を「職員安否確認チャット（臨時）」に変更しました。

概要を「職員の安否確認を行うチャットワークへ変更します。

同居家族も含めた避難状況を記載してください。」に変更しました。



矢代 虎太郎
18:18

TO ALL

★職員安否確認チャットワークの開設★

電話は不通となる可能性（混み合うなど）がありますので、こちらにて定期的に職員の皆さんの安否確認を行うこととします。

チャットワークを見られた方は、職員本人、同居家族を含めて安全であるのか、どこに避難しているかなどご記載ください。

入居者様の安否確認や建物内の被害状況、周辺の被災情報を確認し、18時過ぎからChatworkの運用を変更している

インターネット通信は使用出来ることを確認していたが、電話回線は混線しており、繋がらない職員を複数名確認した

ビジネスチャットにリアクションのない職員を対象に電話連絡をしていくことにより、職員の被災状況を早急に確認することが出来た

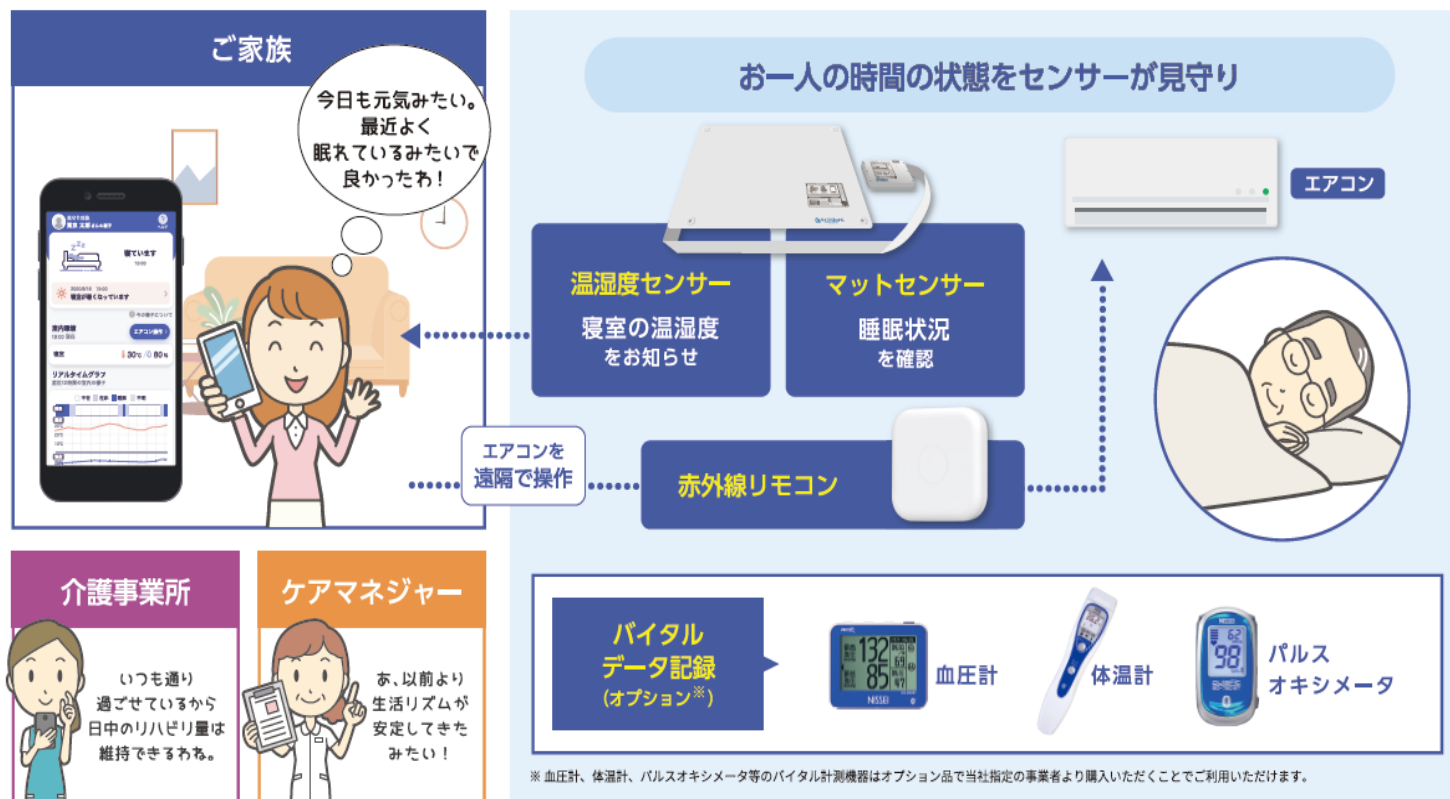
非常災害時には事業所だけでなく、職員も同時に被災していることから、ビジネスチャットを活用していくことは極めて有効であると言える

4. これから考えられる在宅の在り方について

- ・急性期病院では在院日数の短縮化傾向にあり、介護ニーズや医療ニーズの高い状態にもかかわらず退院しなければならない療養者は増加傾向にある
- ・在宅医療機器の革新により、今迄は入院で対応するしか出来なかった治療が在宅でも可能となってきた
- ・国は終末期医療費を削減するためにも「在宅死比率アップ」を目標としていることから、今後、在宅ターミナルケアはますます増えていくことが想定される
- ・更なる地域包括ケアシステムの深化・推進に向け、見守りシステムを活用した居宅サービスの組み合わせ次第では、大幅な質の向上や業務の効率化、社会保障費の削減などが見込まれる
- ・新型コロナウイルスを含む感染対策にて面会制限や行動制限があったことから、新たな感染症が発生した場合は、再び無理をしてでも病院や施設などを退院（退所）する人は増えることが想定される

ライフリズムナビ+HOMEとは 【参考資料】

睡眠や温湿度の情報を見える化し、対象者をいつでも見守れるサービス



WiFi 環境不要

熱中症が心配な方におすすめ！

エアコン遠隔操作

生活リズムの確認

※画像・イラストはメーカーの提供

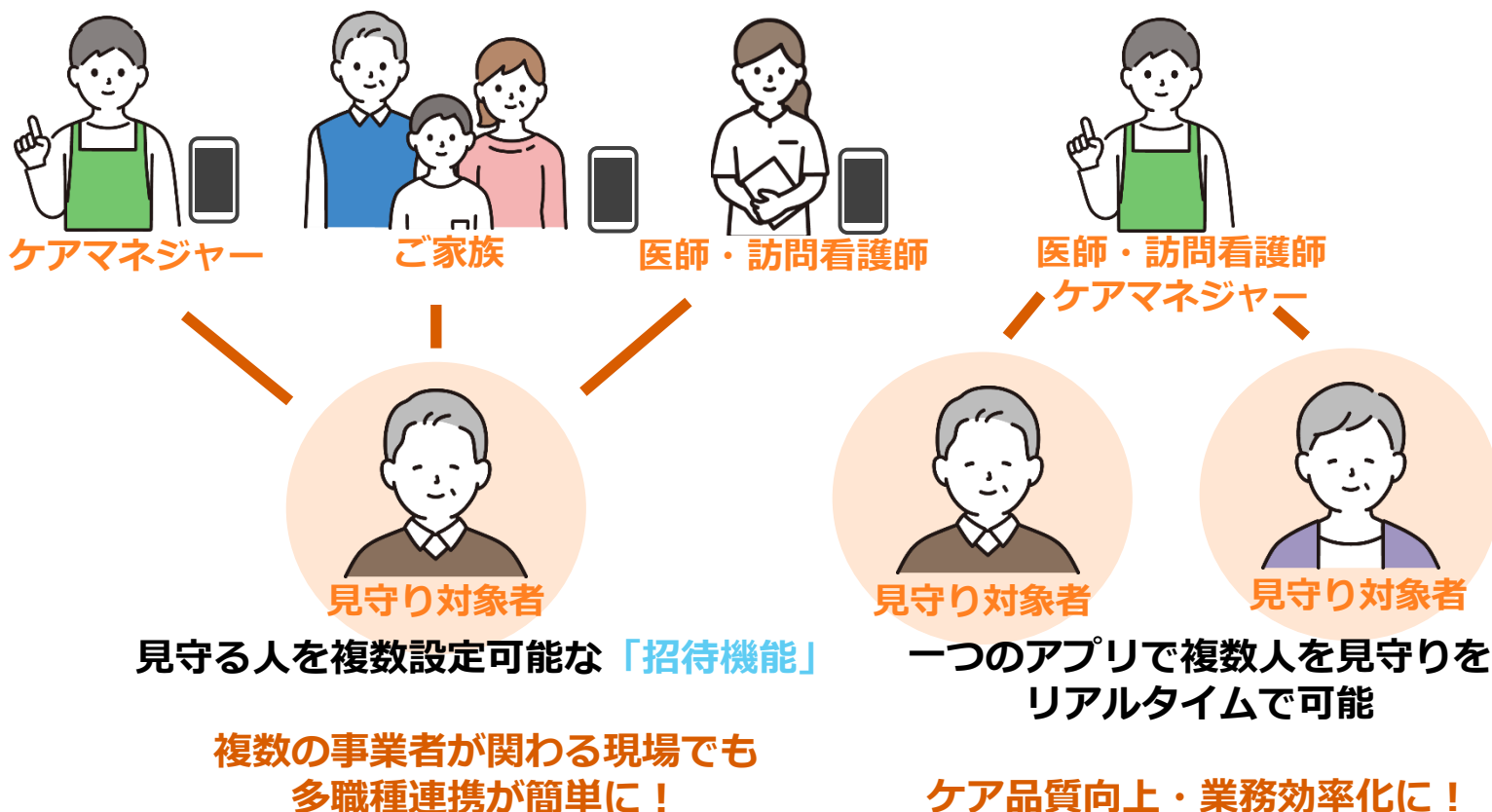
ライフリズムナビ+HOMEは一都七県では福祉用具貸与商品として既に展開されている

※業務提携について、現在当社では中部地区9県の医療・介護関係事業者様、行政機関様などを対象にトライアル中

ライフリズムナビ+HOMEとは 【参考資料】

見守る人も見守られる人も、現場のニーズに合わせて柔軟な設定が可能＜イメージ図＞

※ケアマネジャー、ご家族、医師・訪問看護師、通所介護職員、訪問介護職員らと情報を共有し、トライアル中



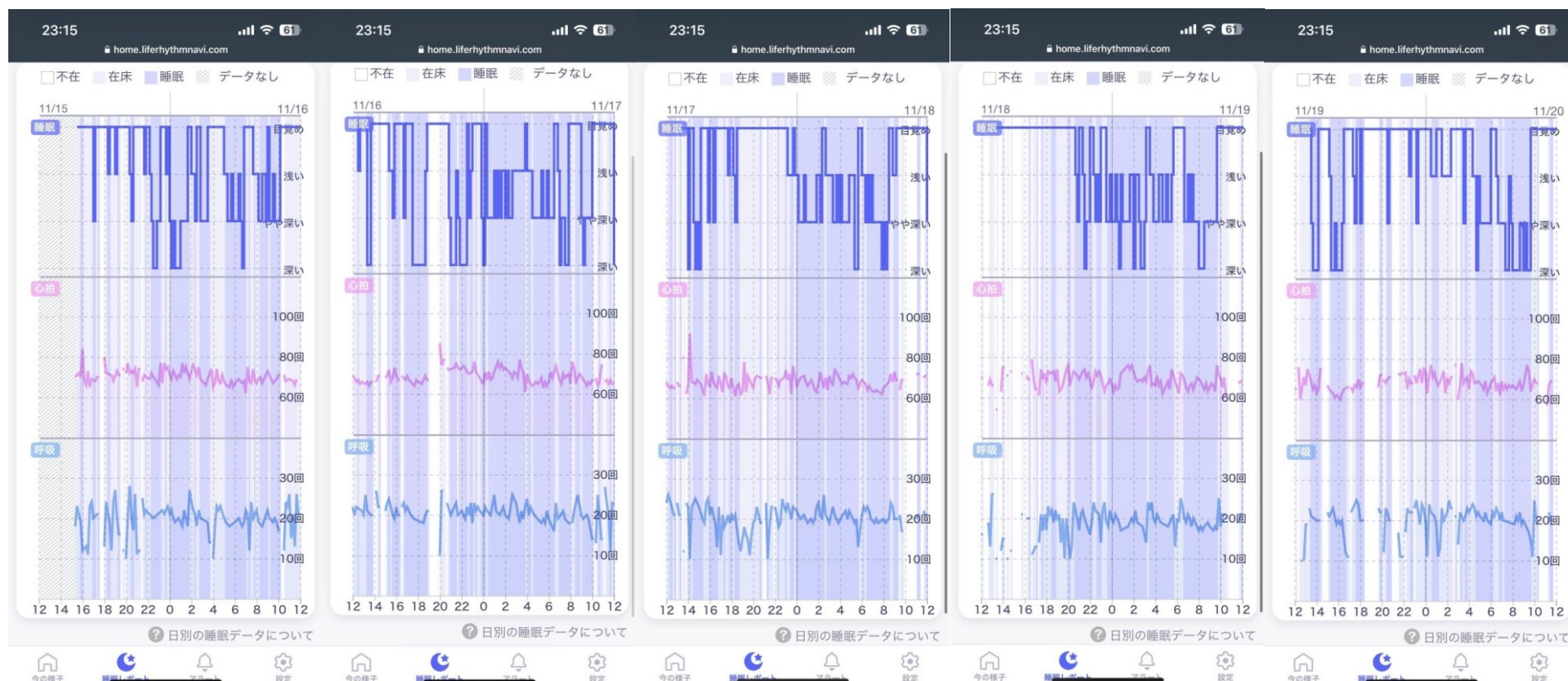
福祉 三子 さん	
♡ 56回/分	🌊 16回/分
🌿 36.8℃	💓 117/78 ㎖
💧 98%	🌡 24℃
🌬 38%	
開発 六江 さん	
♡ 77回/分	🌊 26回/分
🌿 37.6℃	💓 122/85 ㎖
💧 97%	🌡 25℃
🌬 44%	
国際 九郎 さん	
♡ --回/分	🌊 --回/分
🌿 35.8℃	💓 118/76 ㎖
💧 97%	🌡 25℃
🌬 50%	
技術 十二子 さん	
♡ 56回/分	🌊 16回/分
🌿 36.5℃	💓 117/76 ㎖
💧 98%	🌡 23℃
🌬 38%	

※画像・イラストはメーカーの提供

看取り対応3

末期がん疑いの看取り事例【参考資料】

対象者の状態が芳しくないことを確認したので、11月15日に当社より機器導入を提案した



【11月16日詳細】

【11月17日詳細】

【11月18日詳細】

【11月19日詳細】

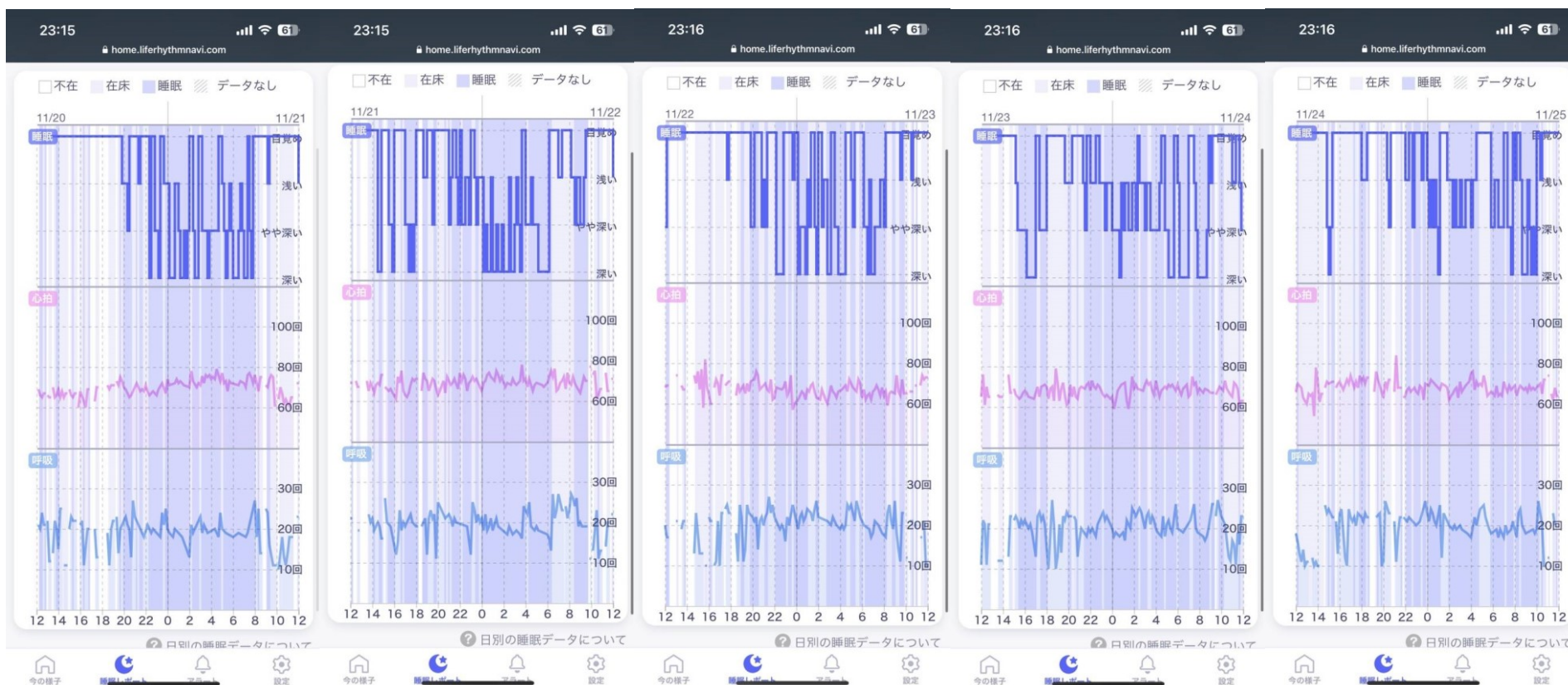
【11月20日詳細】

11月6日よりポータブルトイレを設置し、排泄時は離床出来ていた 17日より体圧分散マットを導入している

看取り対応3

末期がん疑いの看取り事例【参考資料】

11月15日に見守り機器を導入し、ケアマネジャー、訪問看護師など多職種で情報共有し始めた



【11月21日詳細】

【11月22日詳細】

【11月23日詳細】

【11月24日詳細】

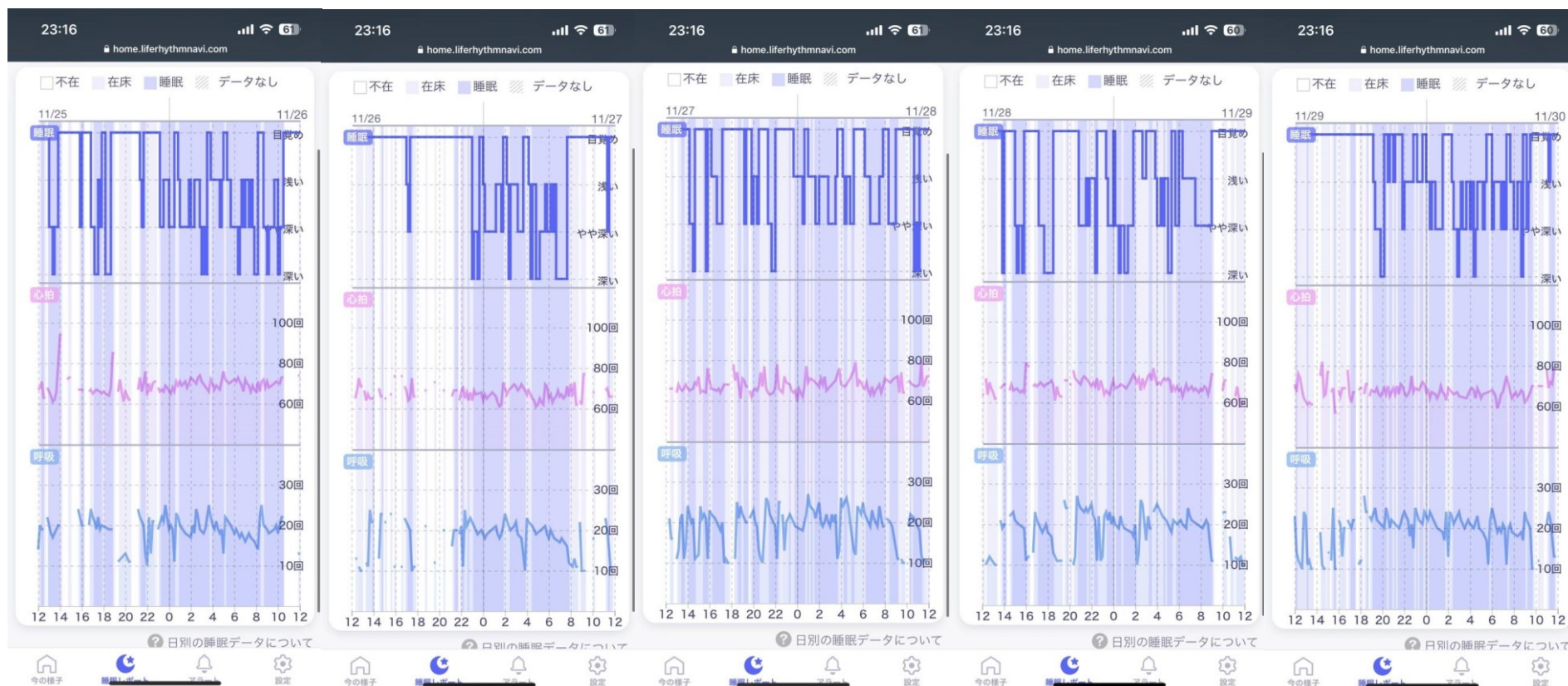
【11月25日詳細】

11月22日より新たに訪問入浴サービスを導入した

看取り対応3

末期がん疑いの看取り事例【参考資料】

自己排痰能力が低下しており、呼吸の表示に乱れの変化が見られている



【11月26日詳細】

【11月27日詳細】

【11月28日詳細】

【11月29日詳細】

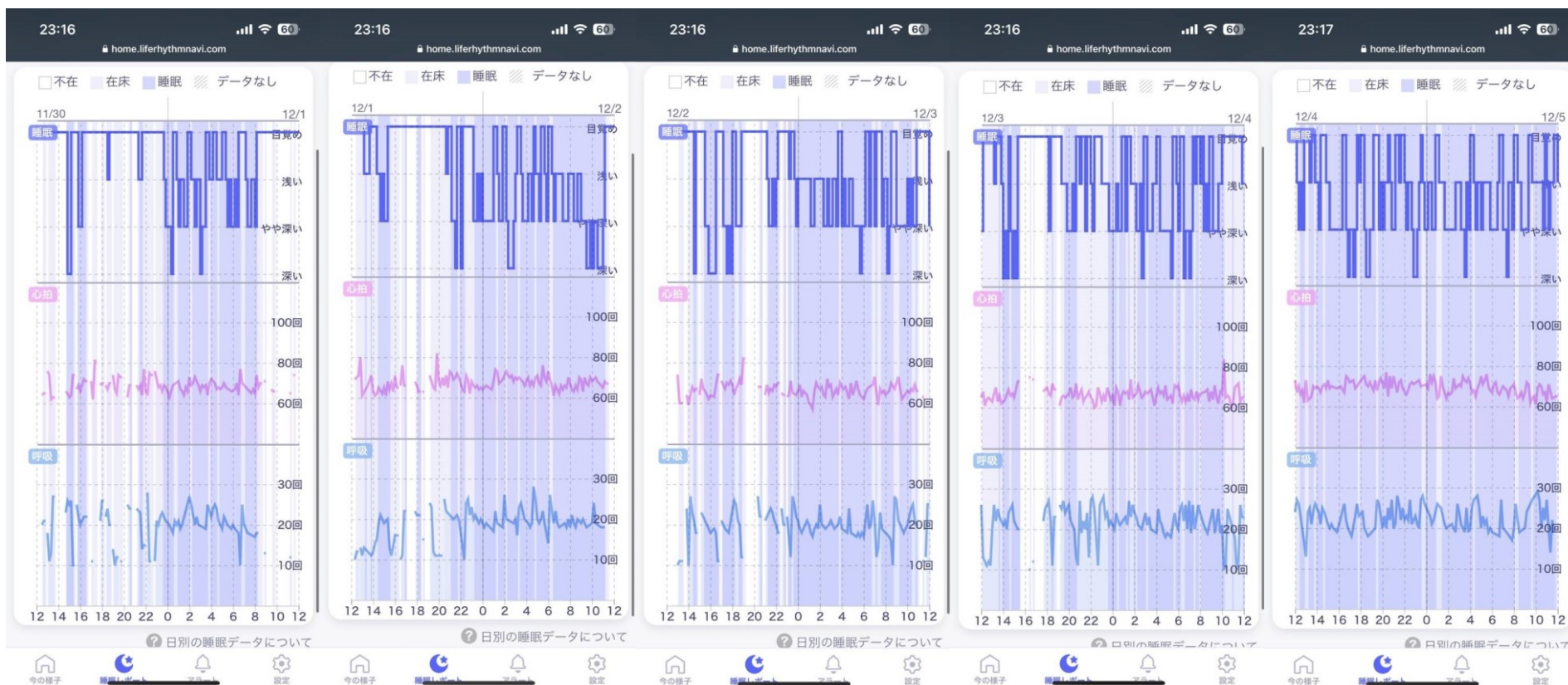
【11月30日詳細】

11月30日より新たに吸痰機を導入した

看取り対応3

末期がん疑いの看取り事例【参考資料】

離床時間が少なくなっており、各種数値の波形が顕著になってきている



【12月1日詳細】

【12月2日詳細】

【12月3日詳細】

【12月4日詳細】

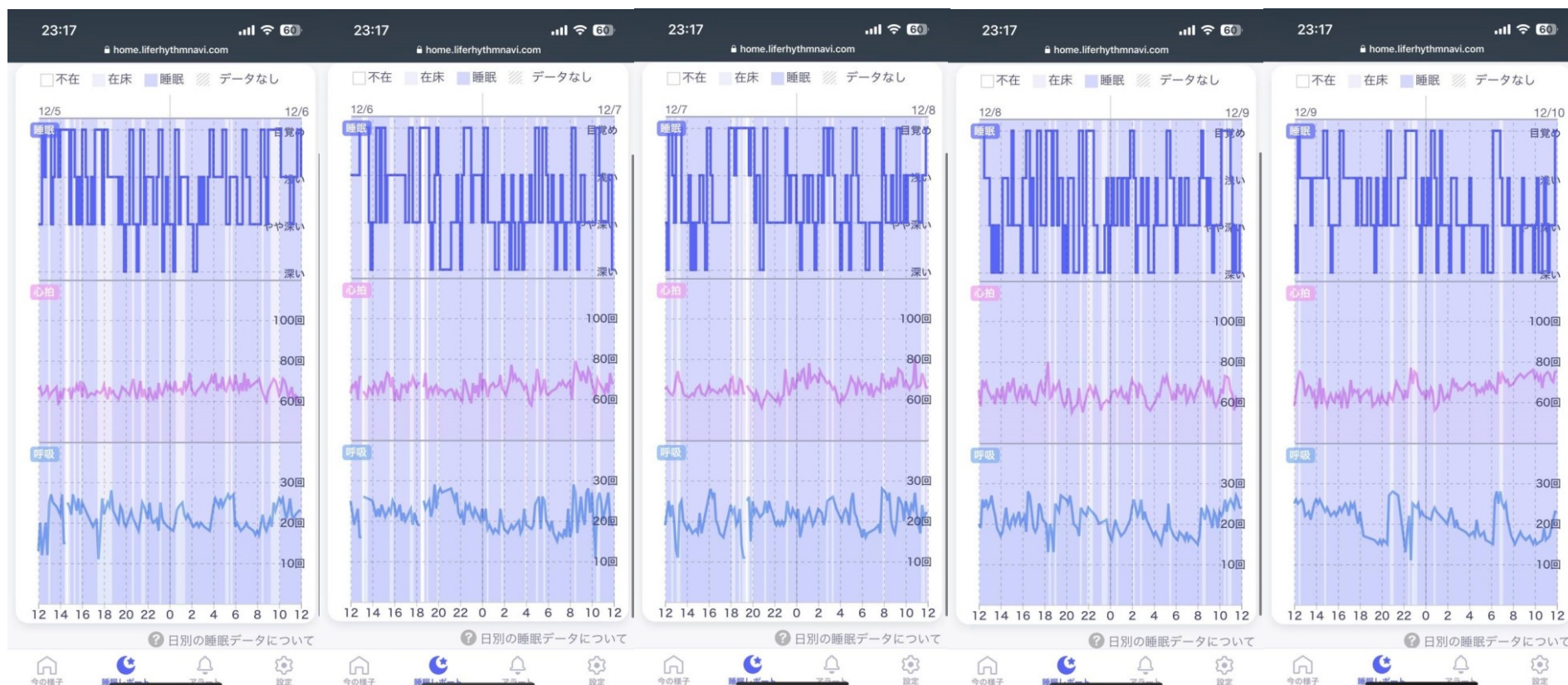
【12月5日詳細】

食事摂取が段々と厳しくなっていることを家族様より確認している

看取り対応3

末期がん疑いの看取り事例【参考資料】

1日15時間以上の睡眠とほぼベッド上での生活に変化していることを確認している



【12月6日詳細】

【12月7日詳細】

【12月8日詳細】

【12月9日詳細】

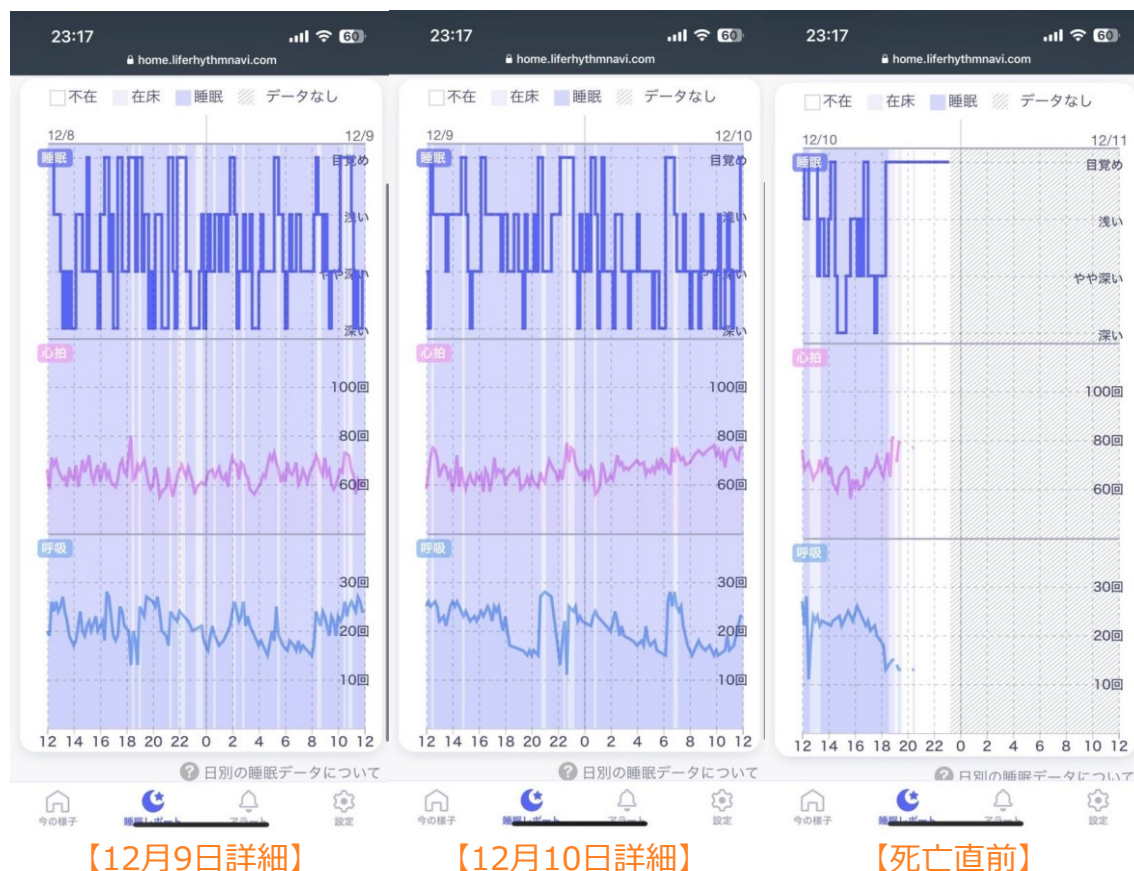
【12月10日詳細】

12月6日より在宅酸素を導入している

看取り対応3

末期がん疑いの看取り事例【参考資料】

死亡数日前より、心拍・呼吸の波形に乱れを確認している



死亡当日は家族様が外出しており、頻繁に見守り機器を用いて状況を確認しながら、外出先で所用を済ませていた

当日は12時から1時間、当社の訪問介護職員がサービスに入っており、対象者の状態が芳しくないことは確認していた

家族様は17時過ぎに帰宅しており、最後まで対象者の希望どおり、自宅にて過ごすことが出来た

- ・ 限られた「人」を有効に、効率よくサービス提供していくためには、介護現場ではもっと 介護ロボットの導入やICT、IoT技術は利活用すべき
- ・ 人材不足の介護現場では業務効率化や生産性の向上は至上命題
- ・ 介護ロボットの導入やICT、IoT技術は介護現場での離職率低下や若手職員の定着率アップにもつながる
- ・ 技術の使い方次第ではケアの質の向上と危険予測の強化にもつながる
- ・ 職員間のコミュニケーションの円滑化
- ・ 医療職や介護支援専門員など多職種との連携強化
- ・ 感染症対策や震災対応、サービスのすき間を埋めるツールとして、生活を把握するためにも見守り機器は大変有効なツールなので、対象者の適用を拡大を要望したい
- ・ システムをどれだけ入れても、進化しても最後は「人」
- ・ 本当に残していきたいのは限られている「人」の手による介護

ご清聴ありがとうございました。

I C Tの導入や見守り機器の運用、当事業所の
ご見学やご質問、ご体験などのご希望がありましたら、
下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。

株式会社来夢

矢代 虎太郎（やしろ こたろう）

電 話：（０７６６）５４－５５１９

F A X：（０７６６）５４－５５９１

メール：kotaro@raimucare-t.jp